

報恩講（ご法話：長倉先生）のご案内

日時・内容

11月7日（土） 午後1時30分～午後4時

勤行・仏教讃歌♪・法話・弁当※

♪ 静岡混声合唱団 TERA 代表・常任指揮、浄土真宗本願寺派教覚寺住職、南莊宏先生をお迎えします。

※弁当をお寺で用意致します。初日7日はお持ち帰り頂きます。

11月8日（日） 午前10時～午後12時15分

勤行・法話・弁当会食※

※ 弁当をお寺で用意致します。お寺の座敷等でお召しあがり頂けます。お持ち帰りも出来ます。

午後1時15分～午後2時15分頃

座談会（お話し合い）※自由参加

講師

長倉 伯博 師（次頁の講師紹介をご参照ください。）

会場

真勝寺本堂

駐車場

報恩講初日は真勝寺駐車場のみご利用下さい。

2日目は同封の別紙「駐車場のご案内」をお読みいただき、真勝寺駐車場と「新潟運輸静岡支店」様の駐車場をご利用下さい。初めて車で来られる方にはご説明致しますのでお問い合わせ下さい。

会費

無料

対象

どなたでもご参加していただけます

報恩講とは

ほうおんこう
報恩講は、1262（弘長二）年に90年の生涯を閉じられた親鸞聖人の11月28日の御命日、またはその前後の期間を中心に、京都の
しんしゅうほんびょう
真宗本廟（東本願寺）や全国の浄土真宗の各寺などで勤められる親鸞聖人の御法事です。そして、私たち真宗門徒にとって、一年で最も大切な御仏事としてご先祖方も大事にお勤めされてきています。

報恩講は、ざいあくじんじゅう 罪悪深重の凡夫というこの私の身の事実、人間存在の本質を告発してくださり、その罪悪深重の身を生きている者こそ何としてでも救いたいと誓い願われる阿弥陀如来の本願を信じ念仏者となって立ち上がり、いのちを再生していくことのできる道を示してくださった親鸞聖人に出遇いなおし報恩謝徳していくことを誓い合う、大事な御仏事です。

荘厳なお勤めやお飾り付け、大切なお話や心暖まる歌の合唱、おいしいお齋のお弁当を
ご用意して、皆様のお参りを心よりお待ちしております。

【講師紹介】



1953年鹿児島県のお生まれ。

早稲田大学第一文学部東洋哲学科卒。龍谷大学大学院博士課程修了。

浄土真宗本願寺派善福寺住職(鹿児島市)。浄土真宗本願寺派布教使。

浄土真宗本願寺派ビハーラ(註1)活動推進委員。鹿児島刑務所教誨師。

龍谷大学、滋賀医科大学、京都光華女子大学、鹿児島女子短期大学、非常勤講師。

鹿児島緩和ケアネットワーク評議員。国立南九州病院倫理・治験委員。

国立病院機構鹿児島医療センター緩和ケア委員。

鹿児島いのちの電話スーパーバイザー。

読売テレビ宗教の時間「心の点滴」出演(1999年)。

テレビ東京ドキュメンタリー人間劇場「心に愛の点滴を一命を見つめる僧 長倉伯博一」(2000年)で、病院での僧侶としての活動が紹介される。

仏教伝道協会第47回仏教文化賞沼田奨励賞受賞。

※註1

「ビハーラ」とは、インドの古語であるサンスクリット語(梵語)で「休息・安らぎ(の場所)」「僧院・寺院」を意味します。

その昔、日本では悲田院(ひでんいん)・施薬院(せやくいん)ともいわれ、心を病む人にはお法(みのり)をつたえ、体を病む人には薬をあたえました。お寺は病院や老人ホームの役割を果たし、地域の医療や福祉の拠点でもありました。

現代では、仏教の立場から末期患者とその家族に対する仏教ホスピス、または苦痛緩和と癒しの医療や福祉を考える活動・施設・団体としてこの言葉が用いられています。

具体的な活動として、特定の病院や福祉施設で、診断の初期から終末看護、終末看死の期間において、仏教者と医師、看護職ないしメディカルソーシャルワーカー(医療福祉相談員)などが協働し全人的ケア(身体と精神に対する鎮痛・対話・介助・朗読・訪問・相談・法話など)に取り組んでいます。

【お問い合わせ】

真宗大谷派 自然山 真勝寺
静岡市葵区長沼2—18—23

☎054-261-3328 FAX054-261-2970

Eメール：makoto0100@mac.com（担当：副住職 一郷真）